

(1) 耐震診断の結果の公表(要安全確認計画記載建築物(防災拠点建築物)) ※令和6年2月5日更新

No	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	岩手県庁舎	内丸10-1	庁舎	—	—	—	—	—
	知事局棟			(一財)建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説」	g_{ls} =0.298 $Q_u/\alpha \cdot Q_{um}$ =0.447	検討中	検討中	I =1.5(重要度係数) その他、「地震応答解析」により、耐震安全性の判断を行っている。
	渡り廊下棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	I_s/I_{s0} =0.675 $C_T \cdot S_D$ =0.396	検討中	検討中	
	議会棟			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	I_s/I_{s0} =0.163 $C_T \cdot S_D$ =0.344	検討中	検討中	
2	盛岡地区合同庁舎	内丸11-1	庁舎	—	—	—	—	—
	本館			(一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(鉄骨が非充腹材の場合)(2009年版)	I_s/I_{s0} =1.26 $C_{TU} \cdot S_D$ =0.59 ※耐震改修後の数値			令和2年11月 改修工事完了

g_{ls} : 構造耐震指標。総合耐震計画基準に示す $Q_u \geq I \cdot Q_{um}$ の式を、既存建築物の構造体の特性を考慮した係数を加えて、指標の形式としたもの。
 Q_u : 保有水平耐力。地震力に対して構造材(柱、梁等)の負担する力の指標。
 Q_{um} : 必要保有水平耐力。
 α : じん性能補正係数。建物の粘り強さを示す指標。
 I_s : 構造耐震指標。建物の耐震性能を表す指標。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。
 I_{s0} : 構造耐震判定指標。想定した地震動レベルに対して建物が安全であるために必要とされる指標。(今回は、 $I_{s0}=0.6$ として算定した)
 $C_T(C_{TU}) \cdot S_D$: 建物の強度指標、経常指標により建物の耐震性能を表す。この数値が大きいほど耐震性能が高くなる。